

中東研究者 安保法案に「反対」

「世界との関係損なう」表明

安全保障関連法案について、国内の中東研究者たちが10日、参議院議員会館で記者会見を開き、反対を表明した。「平和憲法に反する今回の法案は、日本と中東、世界の諸国との関係を根本から損なう」とし、廃案を求めた。

東京大の長沢栄治教授（中東地域研究）ら33人が呼びかけ人となり、計72人が賛同者として名を連ねた。会見で長沢教授らは、「日本が海外で一切の武力行使を行わないことが極めて好意的に受け止められ、中東で友情・信頼感の基礎となってきた」と指摘。「軍事介入が中東にもたらした悲劇と混乱に一切学ぶことなく、アメリカへの協力態勢を一気に拡大しようとする政策は誤っている」と批判した。

千葉大の栗田禎子教授（中東現代史）は「安保法案で、直近で日本が関与する可能性が高いのは中東。憲法学者と並んで、中東研究者も発言すべきだ」と述べた。（中野寛、高橋友佳理）